

オンラインでの新しい 情報交換に関する調査

東京大学工学部都市工学科4年
菊地・高木・山下・山田





調査概要

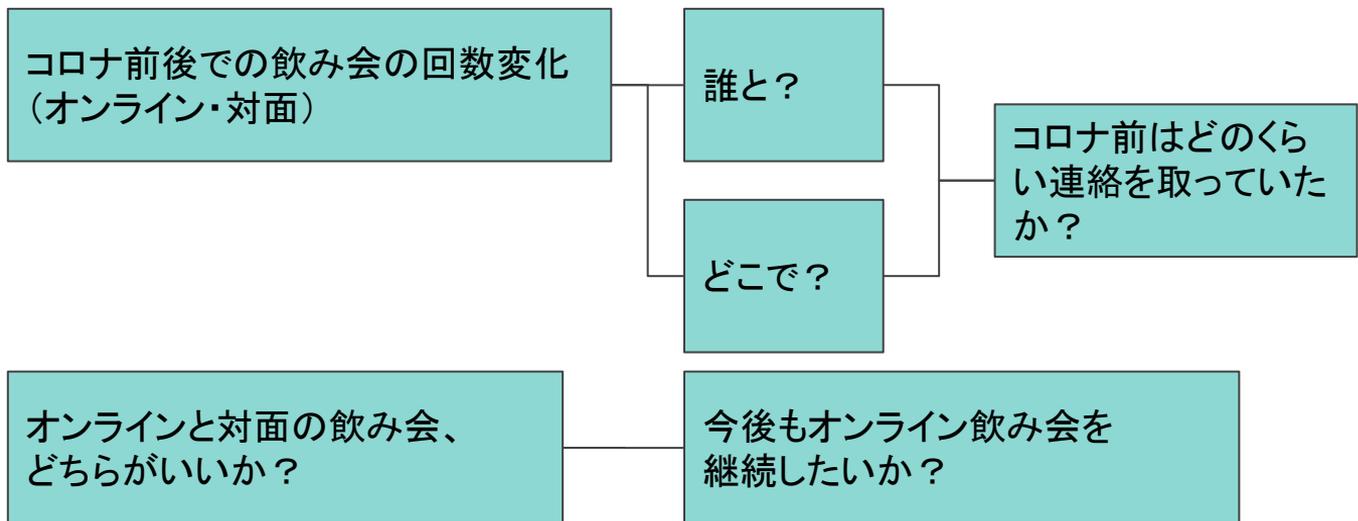
	オンライン飲み会に関する調査	オンラインレッスン・セミナーに関する調査
調査対象	1都3県・鳥取・島根在住の20歳～39歳で、2020年4月以降にオンライン飲み会に参加した人	青森・岩手・秋田・鳥取・島根・1都3県在住の20歳～39歳で、オンラインでのレッスンやセミナーに一度でも参加したことがある人
回収票数	440票	431票
明らかにしたいこと (仮説)	オンラインになって、遠方に住む人と飲み会ができるようになり、関係が疎だった人と連絡をとるきっかけになった。しかし飲み会の満足度としては対面には劣る。	オンラインになって、他の地域でのレッスンに参加可能になった。収束後もオンラインでの継続を望む人が多いが、オンラインセミナーでは物足りず、質的には対面に劣る。

オンライン飲み会に関する調査

調査の概要

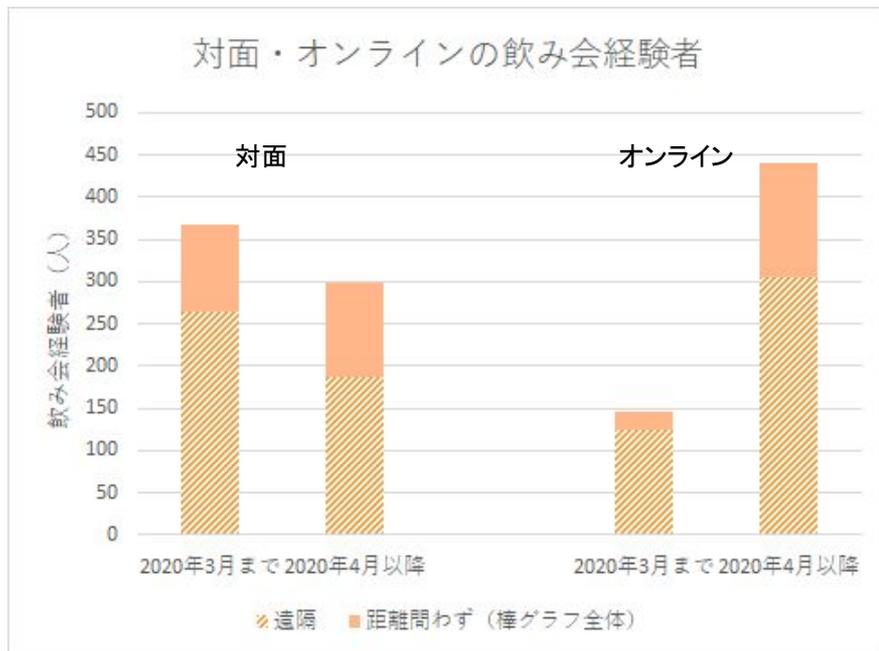
仮説: オンラインになって、遠方に住む人と飲み会ができるようになり、関係が疎だった人と連絡をとるきっかけになった。しかし飲み会の満足度としては対面には劣る。

質問の構成



「対面の飲み会は減少、オンライン飲み会は増加」

質問 ※2020年3月以前(前)と4月以降(後)に関しそれぞれで質問
対面とオンラインの飲み会をどれくらいの頻度で行いましたか。
(2020年4月以降にオンライン飲み会を行った人のみ抽出)

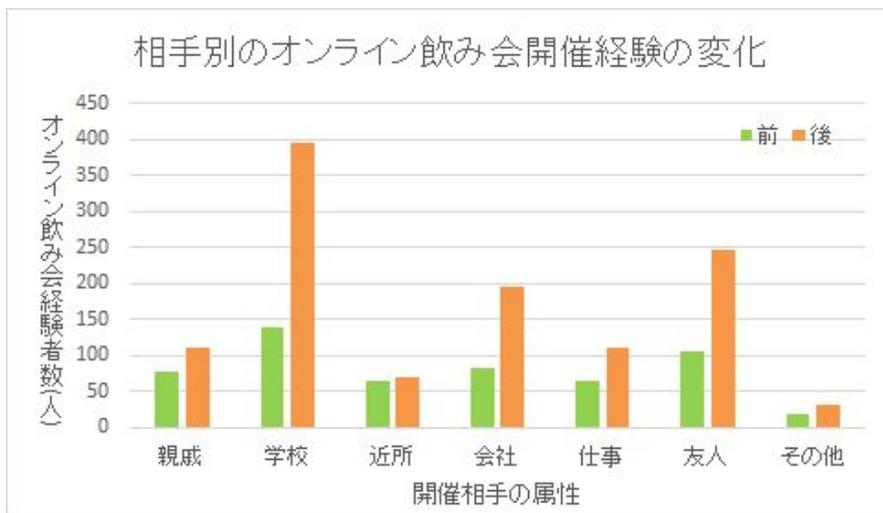


全体として、対面の飲み会は減少し、オンライン飲み会は増加。
オンライン飲み会は月1回～年1回程度の人が多く見られた。

オンラインはもともと遠隔で使うものだったのが、圏内でも利用されるようになったことがわかる。

「オンライン飲み会は友人同士で行われている」

質問 ※2020年3月以前(前)と4月以降(後)に関しそれぞれで質問
オンライン飲み会に、以下のどの関係の人と一緒に参加したことがありますか。あるものすべてにチェックをしてください。

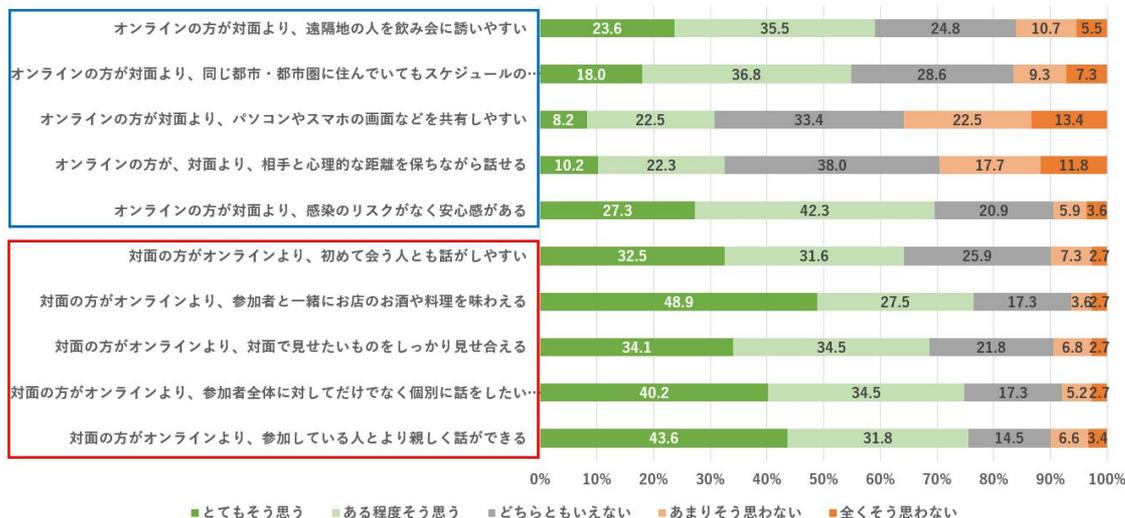


学校関係(同級生など)、友人(趣味関係など)の開催経験者数の伸びが大きく、今までなかなか会う時間が取れなかったような人とオンライン飲み会をする傾向にあると考えられる。

「対面の飲み会に魅力を感じる人が多い」

質問

オンライン飲み会と対面の飲み会を比べてみて、あなた自身がそう思うものをそれぞれ「とてもそう思う」-「全くそう思わない」のうちからお選びください。



対面の飲み会の方がオンライン飲み会よりメリットを感じる人が多いという結果が出た。対面の飲み会では、オンラインでは代替できないもの(大人数で大皿料理をつつこと、オンラインでは埋められない心理的距離)の存在が考えられる。

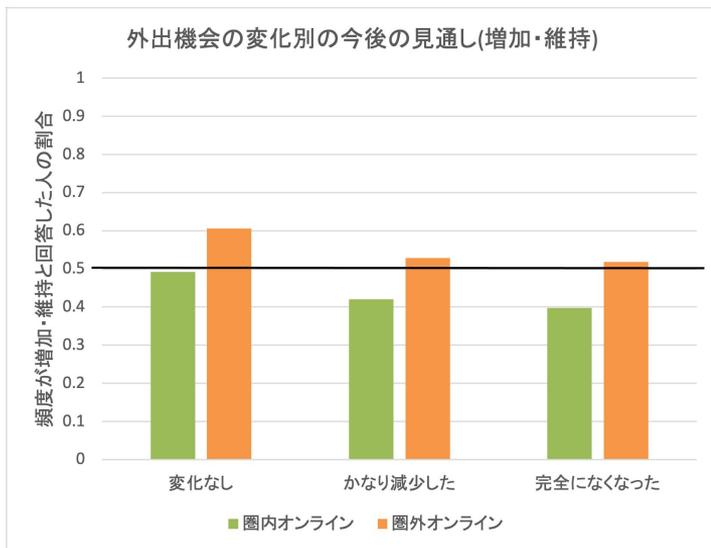
オンラインの飲み会では、感染リスクや時間・場所の垣根におけるメリットが目立った(主にハード)。

青枠...オンラインの飲み会にメリットがあるもの・赤枠...対面の飲み会にメリットがあるもの

「遠隔地とのオンライン交流には肯定的」

質問

- ①今後、感染が収まり、対面での飲み会もコロナ禍前の2019年当時のようにできるようになった場合、感染が収まった後の飲み会の頻度については、どうなりそうですか。(1つ選択)
- ②コロナ禍が始まった後の外出や旅行の頻度について、以下から最も近いものを選んでください。
→②の「友人との交友・デート」の頻度うち「完全に控えるようになった・かなり減った・それほど変わっていない」と回答した人で比較。



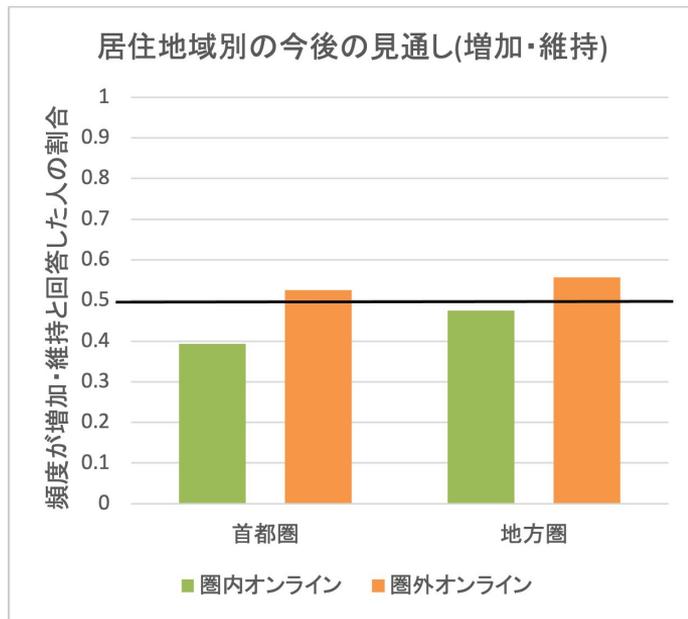
維持または増えそうだと回答した割合は、どの外出頻度でも**遠隔地との方が多い**。

一方で、特に外出を控えていた人は、同じ行動圏域の人々とは、オンラインではなく対面を選択しそうだと予測している人が多い。やはり、**移動の制約**が大きい遠隔地との交流にはある程度オンラインが有効であるが、日常的な近場での交流は対面が望まれる傾向にある。

「地方圏居住者の方が圏内のオンラインに積極的」

質問

- ①今後、感染が収まり、対面での飲み会もコロナ禍前の2019年当時のようにできるようになった場合、感染が収まった後の飲み会の頻度については、どうなりそうですか。(1つ選択)
- ②あなたのお住まいをお選びください。

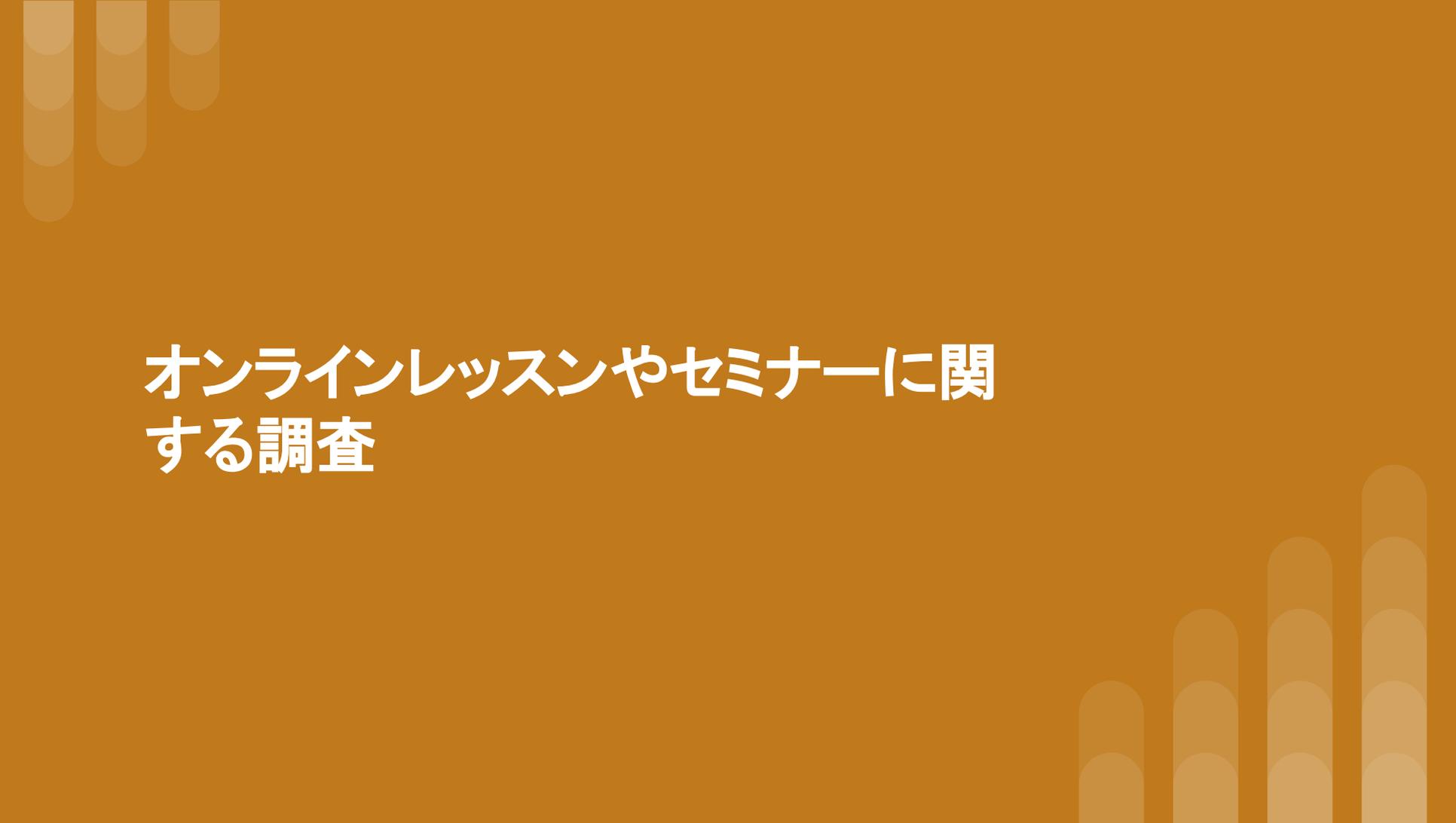


首都圏とそれ以外の地域で分けて分析したところ、**圏内のオンライン交流**についてで差が大きくなり、**地方圏の方が肯定的な見方**であった。首都圏の方が飲食店の数も多く、交通網も発達していて集まりやすいことが影響している可能性もある。**遠隔地との交流への評価はそれほど変わらない**が、やや地方圏の方が肯定的に捉えている。



まとめ

- ・新型コロナの影響で、対面の飲み会は減少したものの、オンライン飲み会が増加した
- ・オンライン飲み会の頻度はそこまで多くなく、**年1回～月1回**程度
- ・遠隔地とのオンライン飲み会も増え、**友人同士の飲み会**が多い
- ・地方圏居住者の方が圏内のオンライン飲み会に積極的
- ・対面の飲み会にはオンライン飲み会で代替できない要素があり、全体として対面への評価が高い

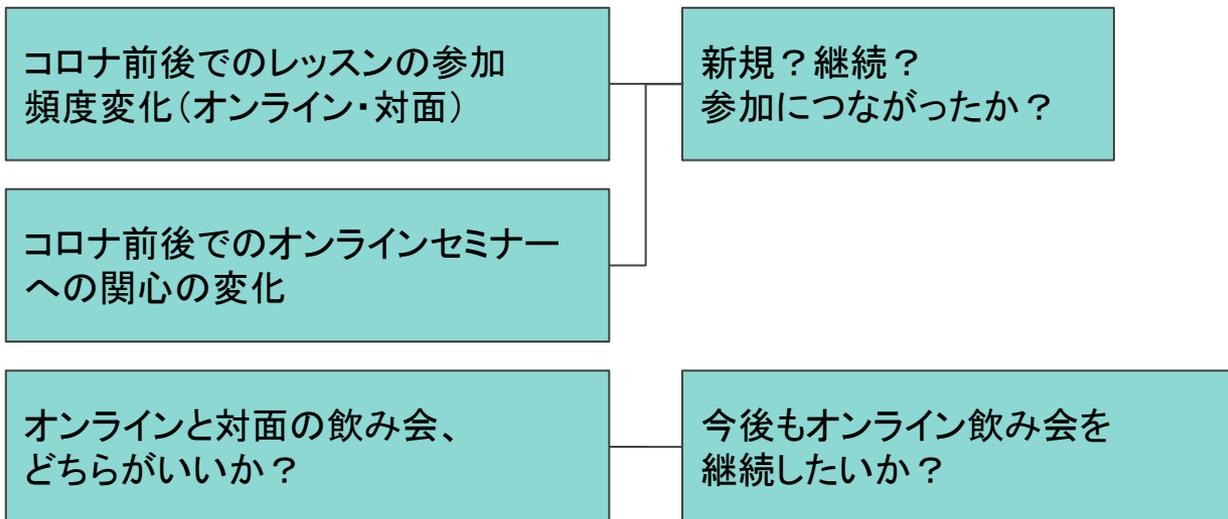
The background is a solid orange color. In the top-left corner, there are three vertical bars of varying heights, each composed of several overlapping semi-transparent orange circles. In the bottom-right corner, there are four vertical bars of varying heights, also composed of overlapping semi-transparent orange circles.

オンラインレッスンやセミナーに関する調査

調査の概要

仮説: オンラインになって、他の地域でのレッスンに参加可能になった。収束後もオンラインでの継続を望む人が多いが、オンラインセミナーでは物足りず、質的には対面に劣る。

質問の構成



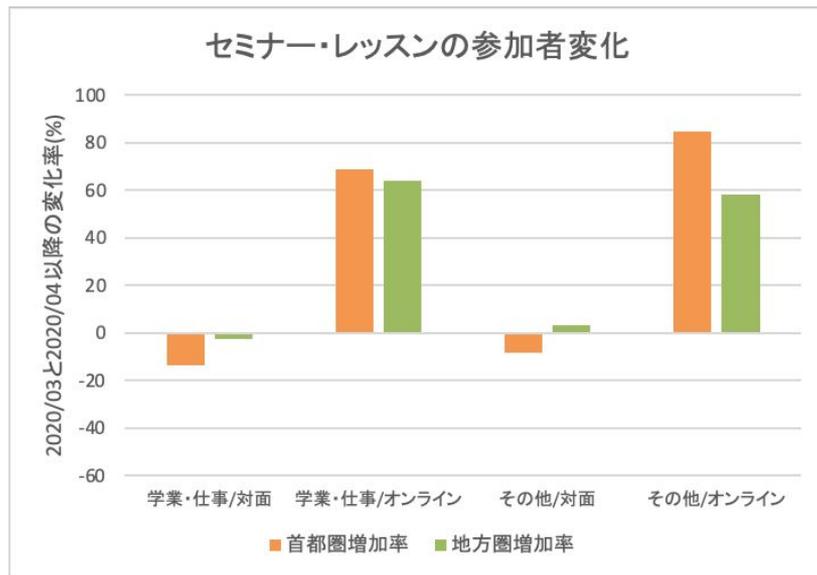
「オンラインでのセミナー参加は大幅増加」

質問

コロナ禍で多くの人がオンラインを利用するようになる前の2020年3月末までと2020年4月以降で、以下の形式のレッスンやセミナーに、これまでにだいたいどのくらいの頻度で参加しましたか。

学業・仕事等で、対面で行ったもの
その他のもので、対面で行ったもの

学業・仕事等で、オンラインで行ったもの
その他のもので、オンラインで行ったもの



その他目的での首都圏と地方圏での違いが大きい。仮説では、地方圏の交流機会の向上が見込まれるのではないかと考えていたが、実際は**都心部**の方がそういったものに**参加**していた。**対面の減少**具合は僅かで、元々行っていたものなどは継続して行う傾向にあると推測される。

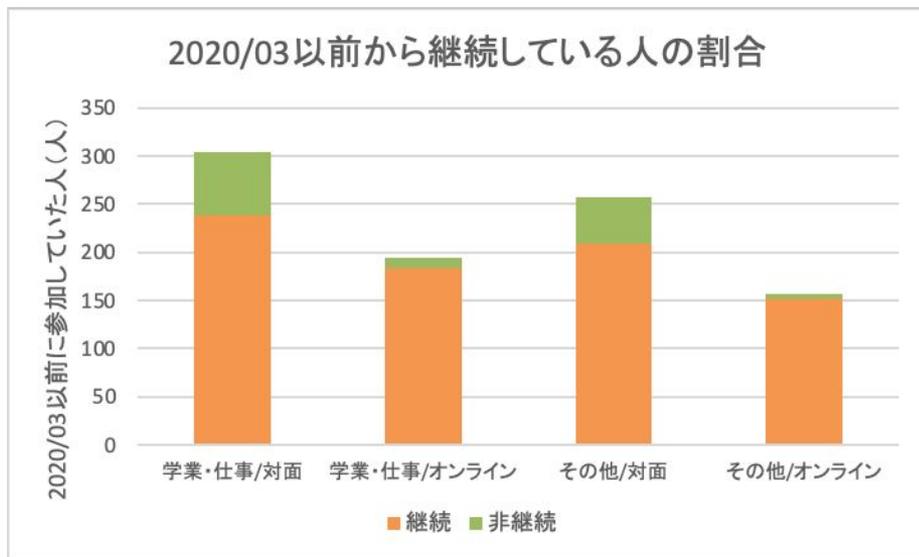
頻度に関しては、首都圏の「その他・オンライン」目的の4月以降は月1～年1回の回答者が多かったものの、他の項目は「全く参加していない」が多く、サンプル数の都合上、今回の分析ではまず「参加した」か「参加していない」かで分類することした。

「元々行っていたものはあまり減っていない」

質問

コロナ禍で多くの人がオンラインを利用するようになる前の2020年3月末までと2020年4月以降で、以下の形式のレッスンやセミナーに、これまでにだいたいどのくらいの頻度で参加しましたか。

ローデータから3月以前「参加」かつ4月以降「参加」を示していた人を抽出



オンラインのセミナー・レッスンは制約が増えることはほとんどないと考えられるので、**継続率が極めて高かった。**

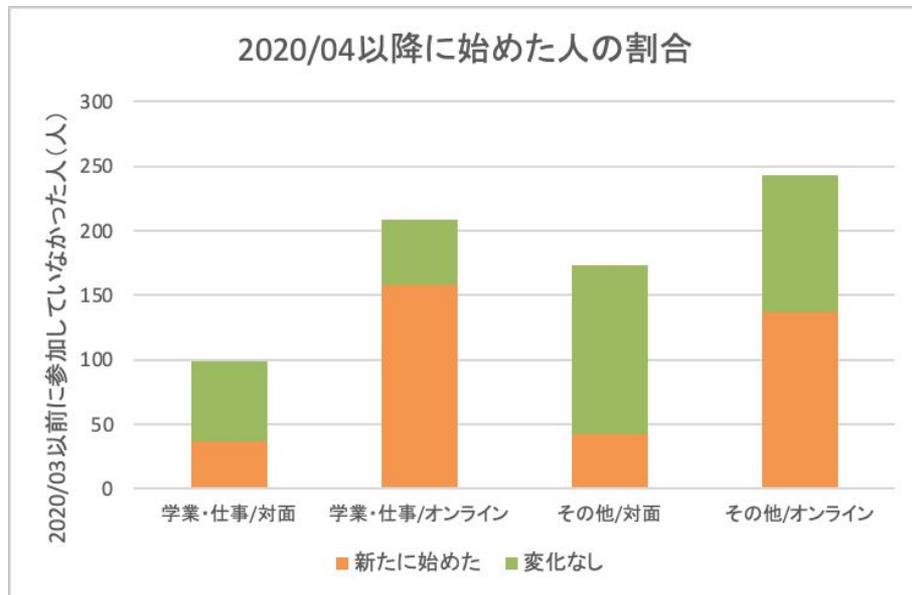
また、目的別で比較するとやや「学業・仕事」の方が減少している。これは、**オンラインによる代替**などの可能性が高い。

「オンラインで新たに参加し始めた人が多い」

質問

コロナ禍で多くの人オンラインを利用するようになる前の2020年3月末までと2020年4月以降で、以下の形式のレッスンやセミナーに、これまでにだいたいどのくらいの頻度で参加しましたか。

ローデータから3月以前「不参加」かつ4月以降「参加」を示していた人を抽出

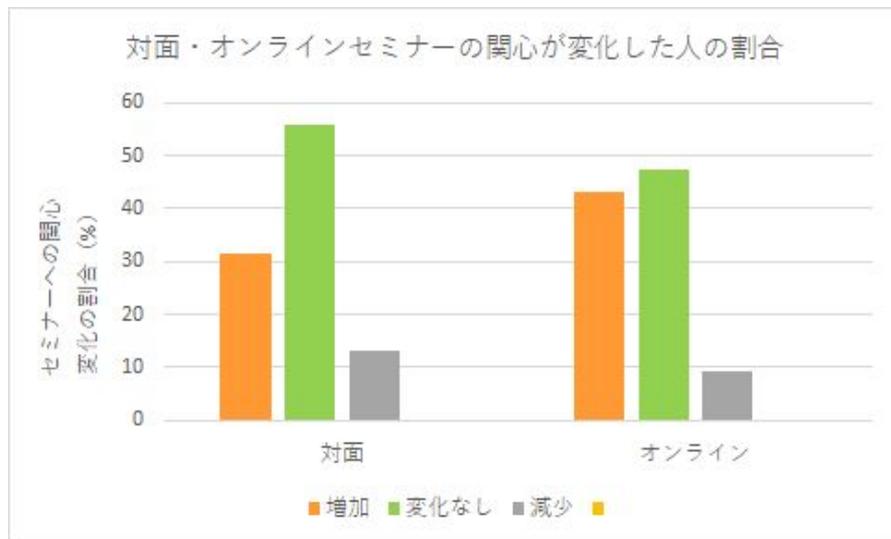


4月以降になって、**オンライン**でのレッスンやセミナーに新たに取り組み始めた人の割合は**高い**。特に**学業や仕事目的**で割合が高い傾向にある。一方で、**対面**はリスクがあるためハードルが上がるのか、目的を問わず新たに始めた人は**少なかった**。

「オンラインセミナーへの興味が高まっている」

質問

コロナ禍で多くの人がオンラインを利用するようになる前の2020年3月末までと2020年4月以降のそれぞれを比較した時に、自分が参加したレッスンやセミナーに対し、どのくらい関心に変化がありましたか。



オンラインのセミナーへの興味は大きく増加している。

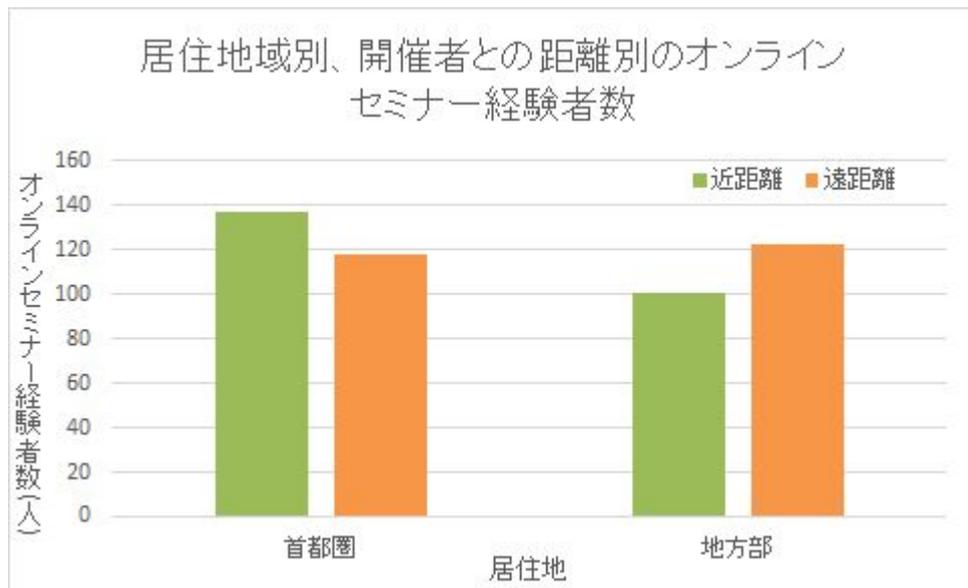
また、対面については変化なしが多く、コロナ禍であっても**対面セミナーへの関心はあまり減少しない**ことがわかった。特に学業や仕事とは関係ないその他の習い事などは最も変化が見られなかった。

「遠距離のセミナー参加が容易に」

質問

コロナ禍で多くの人オンラインを利用するようになる2020年4月以降、新しく参加したオンライン形式の以下※のレッスンやセミナーをすべて選んでください。

※学校・会社関係か否か、発言機会、開催地との距離別の選択項目を用意

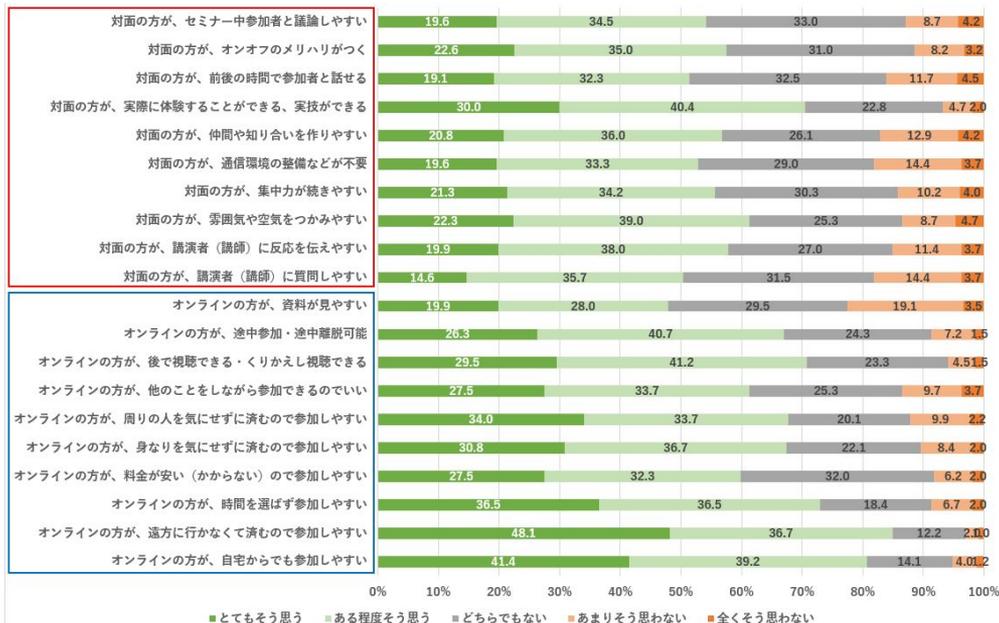


首都圏では近距離(同じ都市圏)開催のセミナーに参加する割合の方が高い一方で、**地方部では遠距離**(異なる都市圏)開催のセミナーに、より多くの人参加している。セミナーのオンライン開催により、**地方部でも様々なセミナーに参加できる機会が増えた**ためであると推測される。

「オンラインセミナーに魅力を感じる人が多い」

質問

オンライン形式のレッスンやセミナーを対面形式のそれと比べて、あなた自身が思うものをそれぞれ「とても思う」「全くそう思わない」のうちからお選びください。



オンラインセミナーの方が総じて対面のセミナーよりメリットを感じる人が多いという結果になった（飲み会はこの逆）。

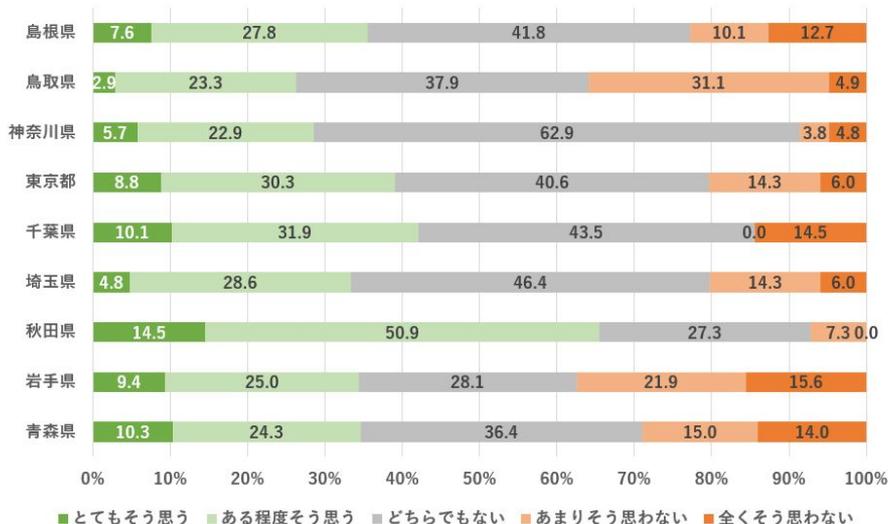
オンラインの飲み会では、時間・場所の垣根におけるメリットが目立った。目に見える定量的な変化の方をメリットとして捉えやすいことが分かる。

青枠...オンラインのセミナーにメリットがあるもの・赤枠...対面のセミナーにメリットがあるもの

「遠方だからといってオンラインセミナーに魅力を感じるとは限らない」

質問

- ①前問(オンラインの方が、遠方に行かなくて済むので参加しやすい)
- ②あなたのお住まいを教えてください。



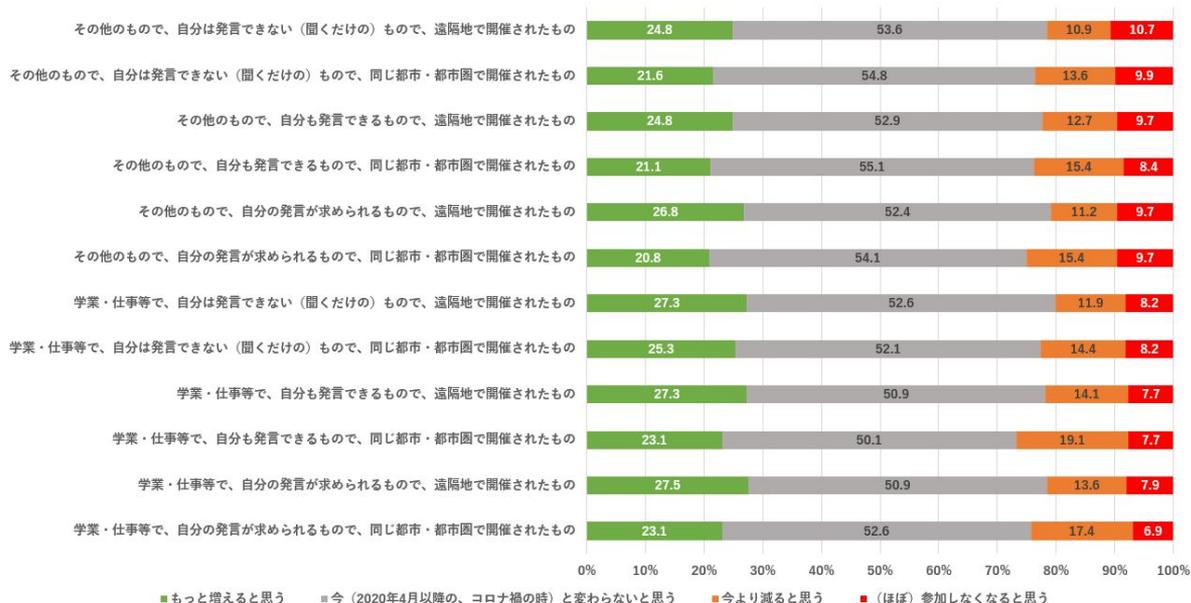
秋田県の値は外れ値的に大きかったが、全体としてみると魅力に感じている人は全体の3割程度だった。しかし岩手県では魅力に感じていない人が魅力に感じている人の割合を超えた。

→遠方だからと言ってオンラインセミナーが必ずしも魅力的とは限らない

「遠隔地で行われるセミナーの参加頻度は増える」

質問

今後感染が収まり、対面形式のレッスンやセミナーもコロナ禍前のようにできるようになった場合、コロナ禍の間に行われていた以下のオンライン形式のレッスンやセミナーにあなたが参加する頻度は、どうなりそうですか。



およそ4分の1は「増える」と回答した。同じ種類のセミナーでも、遠隔地で開催されるものと同じ都市圏で開催されるものでは、遠隔地で開催されるセミナーに参加する頻度がより一層増える。

逆に、同じ都市圏で開催されるオンラインセミナーへの参加頻度は減る。

→セミナーは対面で受講したいという意識か



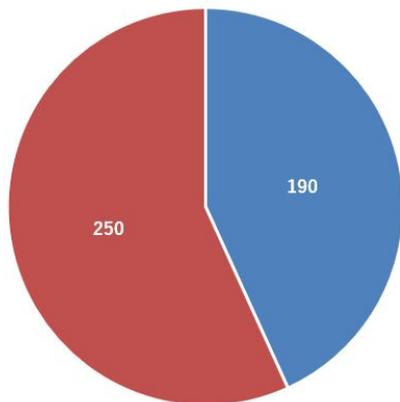
まとめ

- ・コロナ禍でオンラインセミナーに参加する人は大幅に増加した。
もともとやっていた人の継続率は高く、興味を失った人も少ない。
- ・オンラインセミナーへの関心は増加し、新規に参加する人が増えた。
- ・遠距離のオンラインセミナー参加が特に地方部で増えている。
- ・セミナーについて、対面ならではの特徴よりもオンラインの気軽さにメリットを感じている。(飲み会はこの逆)

参考資料

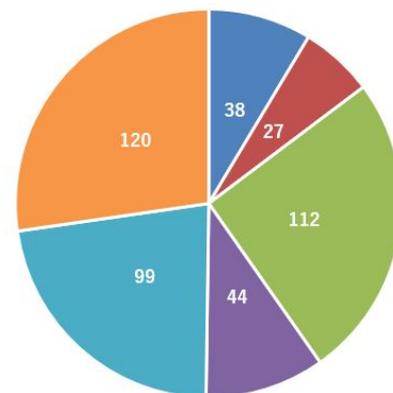
(回答者属性・オンライン飲み会に関する調査)

回答者属性（性別）



■ 男性 ■ 女性

回答者属性（居住地）

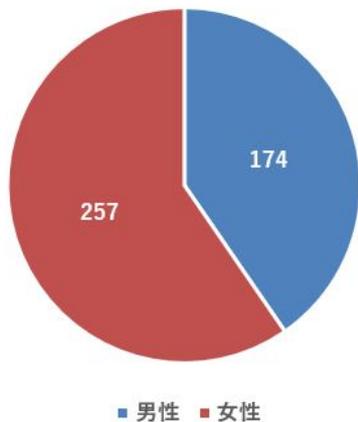


■ 埼玉県 ■ 千葉県 ■ 東京都 ■ 神奈川県 ■ 鳥取県 ■ 島根県

参考資料

(回答者属性・オンラインセミナーに関する調査)

回答者属性（性別）



回答者属性（居住地）

